



サーキット来場者の通信環境改善へ実証開始

-SUPER FORMULA Rd.3 九州大会オートポリスで仮設通信設備を検証-

日本自動車会議所は、モータースポーツ観戦時の利便性向上を目的として、サーキット来場者の通信環境改善に向けた実証を2026年4月より開始します。

この取り組みの第1弾として、オートポリス（大分県日田市）にて開催される「SUPER FORMULA Rd.3 九州大会」において、観客席エリアに仮設通信設備を設置し、来場者が利用するレース動画視聴アプリ等の通信品質向上について検証します。通信品質の変化や利用状況を検証し、今後のサーキットにおける通信環境整備や、より快適な観戦体験の実現に向けた検討につなげます。

この取り組みは、日本自動車会議所が設置するモータースポーツ委員会に参画している関係者による検討のもと、観戦体験の向上と将来的なイベント運営の高度化に向けた基盤整備の一環として実施するものです。今後の追加実証についても検討を進めています。



左：オートポリスグランドスタンド風景、右：オートポリスにおける SUPER FORMULA 開催風景



JAF



SUPER
FORMULA



※モータースポーツ委員会に参画している関係者（一部抜粋）

上段左：一般社団法人日本自動車連盟、上段右：一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会

下段左：株式会社 GT アソシエーション、下段中央：株式会社日本レースプロモーション、

下段右：一般社団法人スーパー耐久未来機構

1. 背景

近年、モータースポーツ観戦においては、レース動画視聴アプリを利用したレース観戦や SNS を活用した情報収集・発信など、新しい観戦スタイルが広がり、多様化が進んでいます。一方で、多くのサーキットは山間部に位置しており、イベント開催時には来場者数の増加に伴い通信需要が急増し、その結果、通信品質が十分に確保できず、通信がつながりにくくなるなど観戦環境に影響を与える状況が課題となっています。

日本自動車会議所では、四輪・二輪の各統括団体である「日本自動車連盟 (JAF)」・「日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)」や国内主要レースのプロモーターである「GT アソシエーション (GTA)」・「日本レースプロモーション (JRP)」・「スーパー耐久未来機構 (STMO)」が参加するモータースポーツ委員会を設置し、関係者一丸となって業界課題の解決に取り組んでいます。同委員会では、モータースポーツ業界全体の観戦環境向上を目的とした取り組みを推進しており、本実証はその一環として実施するものです。

2. 実証実験の概要

実施期間	: 2026 年 4 月～2026 年 12 月
今回実施対象	: SUPER FORMULA Rd.3 九州大会オートポリス
実施場所	: オートポリス (大分県日田市) グランドスタンド席
実施内容	: 仮設通信設備の設置による来場者向け通信回線の増強 レース動画視聴アプリ利用時の通信品質向上の検証
関係者	: 株式会社オートポリス、株式会社日本レースプロモーション NTT ドコモビジネス株式会社、富士スピードウェイ株式会社 (仮設通信設備提供) 一般社団法人日本自動車会議所

3. 実証の狙いと期待される効果

- ・ 来場者の通信品質向上による観戦体験の改善
- ・ レース動画視聴アプリの安定利用など新しい観戦スタイルの促進
- ・ 将来的なイベント運営の高度化 (デジタルチケット、データ連携など)

4. 今後の展望

この実証で得られた結果を踏まえ、大容量通信に対応したサーキット専用ネットワークの構築等も含めた恒常的な通信環境改善に向けた検討を進めます。また、SUPER GT やスーパー耐久、二輪レースなど、他サーキットや他カテゴリーへの展開も視野に入れていきます。

第 2 弾以降の実証については夏頃のレースを目途に現在調整中であり、決定次第改めて発表する予定です。

また、当日の通信状況は天候や来場者数などにより変動する可能性があります。実証は技術検証を目的とした取り組みである点をあらかじめご了承ください。